

対話的な学びを通して、

## 友だちとのコミュニケーションを問い直す指導方法とは

### I 研究の内容

中学2年生を対象にした「特別の教科 道徳」の授業を実践し、その分析を行った。中学校学習指導要領には「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」(文部科学省,2017,p.23)が示されている。対話的な学びの土台の1つとして、学級内における生徒同士の人間関係が考えられる。多様な考え方や価値観を持つ人が集まる教室の中で、「よりよい人間関係を育てるため」(文部科学省,2017,p.25)には、生徒が互いの違いに気づき、互いを理解する具体的な指導方法を検討する必要性を感じた。その際、教師側だけの視点だけではなく、実際に中学生は友だちをどのように捉えているのかを知る必要があると考えた。中学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編では、道徳科と学級経営が深く関連していることが示されている(文部科学省,2017,p.76)。そこで、道徳科において授業を実践し指導方法を検討することにした。

### II 成果と課題

対話的な学びを通して、友だちとのコミュニケーションを問い直す指導方法として、図2に示した「H・Aスパイラル」というワークシートを用いた結果、自己との深い対話が促進されることを提案したい。このワークシートは、山梨大学教職大学院の指導教員の先生から「思考過程は上に巡り伸びていく」という話から考えたものである。また、佐藤学(2015)の「学びの対話的実践の三位一体論」(『学び合う教室・育ち合う学校～学びの共同体の改革～』小学館)を参考にして、教材との対話、自己との対話、他者との対話によって授業を構成した。これらの対話によって、生徒たちは次に示す他者との違いに気づくことにつながった。この指導方法を用いた結果として、生徒たちは友だちの定義の違い、考え方の違い、そして理想と現実のギャップに気づくことができ、他者理解への一助を得られたと考える。

生徒が自己との対話を深め、自問自答する発問を作ることが課題であると実感した。

### III 成果物 (H・Aスパイラルとは指導教員と筆者の頭文字を取って名付けた)

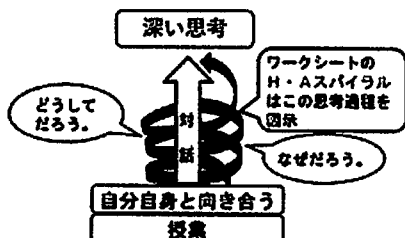


図1 ワークシートの工夫

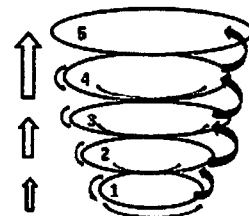


図2 H・Aスパイラル

(山梨北中学校 秋山悦子)

## 〈内地留学研修報告〉

研修テーマ「図画工作科の学びにおける、子どもたちの思いが膨らむ教師の働きかけ」

### I 研修の内容

図画工作科では、児童自身の「こんなことをやってみたい」「もっと工夫したい」という考えから活動が始まり、工夫して表現する、一人一人の個性やよさが輝くような、主体的な学びを目指している。そこで、主体的な学びを展開するために児童が「思い」を豊かに膨らませるための教師の働きかけ、特に発問に焦点を当て、検討した。

### II 研修の成果

#### 1. 主体的な学びを実現するための「思い」

図画工作科では、児童自身の「こんなことをやってみたい」「もっと工夫したい」という「思い」から活動が始まる。「表したいこと」と「表したい意欲」の二つを合わせて「思い」であると考えた。この「思い」は、課題を把握することで自然に生まれるが、「思い」が膨らむことで、工夫して表現しようとしたり、より「思い」に近づけようと追求したりする、主体的な学びが生まれると考えた。そこで、授業において児童の「思い」を膨らませる手立てが必要となってくる。

#### 2. 教師の働きかけとしての「発問」と児童自身の「問い」

「思い」を膨らませるための手立ての一つとして、「発問」に焦点を当てた。「発問」を「授業構成レベルの発問」と「授業展開レベルの発問」の二つに分けて考えた。「授業構成レベルの発問」は、児童全員が学習課題と向き合い、自分の表したいことを思い浮かべ、表したい意欲を高める役割、つまり「思い」を膨らませる役割を持つ発問である。「授業展開レベルの発問」は、授業構成レベルの発問によって促されて生み出された表したいことを、児童一人一人がどのように表現するか、児童が自分で思考することを促す役割を持つ。この二つの発問を教師側から提示することによって、児童は「思い」を膨らませ、さらにその「思い」をどのように表現することができるのか、と自身の中に「問い」を思い浮かべる。その「問い」の解決に向けた表現の工夫や追求こそが、図画工作科の主体的な学びであると考えられる。

#### 3. 授業実践を通して見えた児童の主体的に学ぶ姿

授業実践では、教師が発問することで、児童は対象を自分事として捉え、「どう表すと自分の思いに合うだろうか」と深く考えていた様子が伺えた。発問の機能である、子どもの思考を揺さぶることや促すことが、「思い」を膨らませることに、そして主体的に発想・構想を広げることに、発問が重要な役割を果たしたと言えるのではないかと考える。

### III 研修の課題

本年度の研究では授業実践は絵に表す活動において一題材のみしか行うことができなかった。発問の有効性を検証するためには、他の領域である立体に表す活動、工作に表す活動、造形遊び等においてさらなる授業実践を継続することが課題である。

(塩山南小学校 市川安紀)